

第19回 ジャパンオープンハンドボールトーナメント 戦 評 報 告 書

競技日	平成26年 8月11日	試合番号	D-タ
種別・回戦	女子・決勝	会場	貴志川体育館

かがわぎんこうちゅうひぼんどう 香川銀行T・H			えいしーわかやま HC和歌山		得点チェック欄	
33	15	前半	9	21	前半	<input type="checkbox"/>
	18	後半	12		後半	<input type="checkbox"/>
		第1延長 前半			第1延長	<input type="checkbox"/>
		第1延長 後半			第2延長	<input type="checkbox"/>
		第2延長 前半			7mTC	<input type="checkbox"/>
		第2延長 後半			合計点	<input type="checkbox"/>
		7mTC			記録主任確認	<input type="checkbox"/>

戦評	戦評委員氏名	今西 千晶
<p>決勝で7年連続優勝の香川銀行T・Hに対して、来年度国体開催HC和歌山がどう食い下がるか楽しみなカードとなった。ゲームは両チームとも激しいコンタクトの応酬から始まった。先手を取ったのは香川銀行T・H 4番沢井のサイドからのシュートで点を取った。HC和歌山は6番中村からの絶妙なパスで4番吉田が決め10番長尾、2番東もロングシュートを決め3対1とした。その後、香川銀行T・H 4番沢井のサイドシュートと10番土井の速攻で同点とする。15分HC和歌山6番中村、2番東の退場で香川銀行T・Hが数的優位に立つが、HC和歌山キーパー12番坂田の好セーブでねばって守り抜いた。しかし、香川銀行T・H 14番太田と2番重信などの速攻で差が広がり、15対9で前半を折り返した。</p> <p>後半スタートもスピード感あふれる試合を展開し、HC和歌山はクロスや4番吉田の中継ポストを交えた多彩な攻撃を見せる。香川銀行T・Hの積極的に詰めてくるディフェンスからの速攻で13番荒木、4番沢井が決めた。しかし、HC和歌山は必死に足を使って守り抜き、4番吉田と2番東のポストシュート、8番竹中のロングシュートで反撃したが力及ばなかった。</p> <p>試合は香川銀行T・Hが制したが、最後の最後までスピードとパワー溢れる試合を展開した両チームに拍手を送りたい。点差こそ開いたが、大変見ごたえのある好ゲームであった。香川銀行T・Hは8年連続優勝を果たした。</p>		

送信担当記録委員	的場 知嘉子
----------	--------

